

学校法人 東京キリスト教学園  
2012 年度事業報告

(2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日)

目 次

<b>I 概要</b>	
1. 設置する学校・学部・研究科等 .....	3
2. 学部・研究科等の入学定員、学生数の状況 .....	3
3. 役員・教職員の人数 .....	4
<b>II 事業報告</b>	
2012 年度事業報告の総括 .....	7
<b>1. 東京基督教大学</b> .....	8
(1) 学長室	
①理事会 8/②評議員会 8/③学園運営会議・大学運 営会議 8/④企画会議 8/⑤教授会 8/⑥チャペル 8/⑦自己点検・自己評価委員会 8/⑧教育行政 9/⑨ 外部資金獲得 9/⑩海外協定校 9/⑪加盟国際団体 9/⑫学生募集 9/⑬広報 10/⑭TCU 支援会・募金 11	
(2) 神学部	
①神学部 12/②神学科 12/③国際キリスト教福 祉学科 13 (a. 国際キリスト教学専攻 B. キリス ト教福祉学専攻)	
(3) 神学研究科 14	
(4) 教会音楽専攻科 14	
(5) 教務部	
①教務 15/②生涯学習 15/③入試 16/④教員 支援 17/⑤教育情報 18/⑥イスラエル・スタデ イツァー 18/⑦研究科 18/⑧音楽関係 18	
(6) 学生部	
①学生課 19/②キャリア支援 20/③寮関係 21	
(7) 図書館 22	
(8) 附属研究所	
①共立基督教研究所 23	
②国際宣教センター (Faith and Culture Center) 23	
③教会音楽アカデミー 23	
<b>2. 管理部門</b> .....	25
(1) 総務部	
①総務関係 25/②食堂関係 26/③管財関係 26	
<b>III 財務報告</b>	
1. 2012 年度決算概要 .....	28
(1) 決算 29	
(2) 貸借対照表 30	
(3) 主要財務比率 30	

# I 概要

## 1. 設置する学校・学部・研究科等

### (1) 東京基督教大学

神学部	神学科
	国際キリスト教福祉学科
大学院神学研究科	神学専攻
専攻科	教会音楽専攻

## 2. 学部・研究科等の入学定員、学生数の状況

### (1) 東京基督教大学

年次	学 部	学 科	入学定員	入学者数	2012. 5. 1現在
1	神学部	神学科	15	21	21
		国際キリスト教福祉学科	20	6	6
		小計	35	27	27
2		神学科			14
		国際キリスト教福祉学科			12
		小計			26
3		神学科	10	12	32
		国際キリスト教福祉学科			12
		小計	10	12	44
4	神学科			1	47
	国際キリスト教福祉学科				15
	小計			1	62
		合 計	45	40	159

1	神学研究科	神学専攻	18	17	17
---	-------	------	----	----	----

1	専攻科	教会音楽専攻	5	1	1
---	-----	--------	---	---	---

### 3. 役員・教職員の人数

(2013年3月31日現在)

#### (1) 役員

理事 14人 (うち、理事長1人、常任理事4人)

監事 2人

職名	氏名	選任区分
理事長	廣瀬 薫	4
常任理事 (学長)	倉沢正則	1
常任理事 (研究科委員長)	山口陽一	2
常任理事	朝岡 勝	3
常任理事	遠藤 潔	4
常任理事	中島伸一	5
財務担当理事	千葉秀悦	5
理事	赤江弘之	4
理事	石川弘司	3
理事	岩間秀彬	3
理事	菊池良一	5
理事	スティーブ・バーン	4
理事	フィリップ・フォックスウエル	3
理事	深澤健一	4
監事	長橋和彦	
監事	横山武	
理事定員 10-15名 現員 14名		
監事定員 2-3名 現員 2名		

[選任区分]

- (1) 東京基督教大学学長
- (2) 大学院研究科委員長または大学学部長のうちから理事会において選任した者
- (3) 評議員のうちから評議員会において選任した者
- (4) 支援団体によって推薦された者のうちから、理事会において選任した者
- (5) 功労者又は学識経験者のうち理事会において選任した者

## (2) 教員

専任					助手	兼任	合計
教授	准教授	講師	助教	計			
12	7	2	1	22	2	43	67

## (3) 職員

法人部門		東京基督教大学	
専任	1	専任	20
契約	2	契約	0
パート等	1	パート等	3
計	4	計	23

## II 事業報告

## 2012 年度事業報告の総括

2012 年度は、当期中期計画（2008-2012 年度）の最終年でもあった。キリストの主権を教育の土台に据えるキリスト教大学の使命を果たしていくために、この期間は特に、定員充足と財政の健全化（帰属収支均衡）を目指してきた。

定員充足については、学部全体では 2012 年度で充足率 98%（2008 年度は 84%）であった。学科・専攻別には なお課題がある。学生募集委員会を初め、全学を挙げてこのために取り組み、2012 年度には キリスト教福祉学専攻特別奨学金も創設して、キリスト教福祉学専攻の人材養成と学生への経済的サポートのために更なる充実を図った。

財政の健全化については、世界的な経済状況の冷え込みによる資産運用収入の激減や特色ある教育に対する「採択制特別補助金」制度が終了したこと等、収入構造に大きな変化があった。そのことにより、中期計画の目標であった帰属収支均衡の達成はまだ難しい状況であるが、資金収支は 2012 年度、経済状況の変化による資産評価差額の好転という要因がありプラスを計上した。

2012 年度には、神学校の教会教職者養成を大学に一本化して教育課程を整えるというビジョンが実現し、大学院神学研究科を開設し順調なスタートを切ることができた。同時に博士後期課程の設置申請をすることも決定し、2013 年度に申請を行う。また、発足して 2 年目を迎えた「東京基督教大学『明日の世界宣教者育成』支援会」（TCU 支援会）は、現時点で全国に 8 地区となり、全学挙げての協力体制のもと活動を推進してきている。

計 画	報 告
<b>1. 東京基督教大学</b>	
<b>(1) 学長室</b>	
<b>①理事会</b> 定期的に開催し、学校法人の業務に関する最終的な意思決定をする。	①-④を定期的に開催し、学園の経営や教育研究に関する課題の検討・企画・運営などについて審議した。
<b>②評議員会</b> 定期的に開催し、予算、事業計画、寄附行為の変更等について諮問する。	
<b>③学園運営会議・大学運営会議</b> 学園運営会議（理事長、学長、職責理事、事務局長）と大学運営会議（学長、学部長、研究科委員長、教務・学生・総務部長、事務局長）を定期的に行い、学園の経営や教育研究に関する課題の検討・企画・運営・推進について協議する。	
<b>④企画会議</b> 経営に関わる企画について特化して検討し、理事会の判断資料として提供していく。	
<b>⑤教授会</b>	
大学教授会を定期的に行い、入学・卒業判定、学籍異動、学生指導などの各種議題を審議する。	以下の日程に開催し、入学・卒業判定、学籍異動、学生指導などの各種議題を審議した。 4/2、4/17、4/26、5/29、6/29、9/11、10/23、12/4、1/15、2/12、3/6、3/15
<b>⑥チャペル</b>	
a. 原則学期中の火曜日から金曜日、11時20分から11時50分に行なう。出席者は全学生と教職員。メッセージは、本学園の教職員、理事、監事、評議員、支援教派教会の牧師等外来講師（約10名）、最終学年の学生等によって行われる。基本的な内容は以下の通り。 前奏／賛美／主の祈り／メッセージ（説教、証）／祈り／報告	左記を実施し、11名の外来講師を招聘した。
<b>b. チャレンジチャペル</b>	
チャペルの充実と活性化を目的とした「チャレンジチャペル」を以下の要領で実施する。	左記を実施した。
(ア) 学期に一度ワークショップチームによる賛美リード。	
(イ) 月に一度ACTS-ES生による英語のチャペル。 (ウ) 学期に一度 音楽専攻科生によるチャペル。	
<b>c. 同窓会チャペル</b>	
年に数回、同窓生をチャペル講師として招く「同窓会チャペル」を実施する。	2/21に実施（講師：真島 亨氏）
<b>d. 学園祈祷日</b>	
年に2回、1日かけて学校、クラス、個人で祈り、外部講師による礼拝をもつ。	6/13、2/5に実施（講師：デイブ・ホールデン氏、趙 南洙氏）
<b>e. 成人祝福チャペル</b>	
成人を迎えた学生に向けてのメッセージがあり、学生会から寄贈品を贈る。	1/15に実施。
<b>⑦自己点検・自己評価委員会</b>	
次回、次期中期計画（2013-17年度）の決定（5月）に向けた作業を主導する。また、次回、2014年度の自己点検・自己評価、および2015年度の第三者評価に向けて、学内のPDCAサイクルを推進して、本学の改善の提言を行うとともに、自己点検・評価体制の検証・改善に取り組む。	* 2012年度、⑦-⑨を教育行政に統合したため、一括して報告  5月に新中期計画（2013-17）の決定を行った。年間を通してPDCAサイクルの見直し作業を行い、2013年度より新たな内部質保証体制を実施予定。 外部研究費の獲得の奨励に努めた結果、近年は毎年1割程度の教員による科学研究費助成事業への申請が行われている。今後は、同事業への申請数増加とともに、内外の多様な研究資金獲得を推進し、外部研究費導入に努めていく。

計 画	報 告
<p><b>⑧教育行政部門</b>  a. タスクフォースを中心に、教育行政、補助金、奨学金などに関わる情報を組織的に収集し、大学行政に反映する。  b. 私学補助金申請の実務対応を監督し、競争的補助の可能性について検討する。  c. 研究に関する外部資金獲得を促す。</p>	
<p><b>⑨外部資金獲得</b>  科学研究費補助金をはじめとする外部研究資金獲得、私学助成の特別補助金の導入に努めるとともに、福祉関連助成の導入にも積極的に取り組んでいく。</p>	
<p><b>⑩海外協定校</b>  学生交流、教員交流の機会を広げるため、現在協定を結んでいる7校に加え、新たな協定校の開拓を目指し海外の大学と積極的に交流し、協議する。</p>	<p>10月に米国に教員2名を派遣して11大学を訪問し、来年度EAIの学生募集を行うとともに、協定の締結や新たな交流の可能性について協議をした。</p>
<p><b>⑪加盟国際団体</b>  本学の加盟する以下の国際団体が主催する会合や研修会に教員を派遣し、大学運営やFDに関する知識を広げ、国際的なネットワーク作りに務める。  ・ Council for Christian Colleges &amp; Universities (CCCU)  ・ International Association for the Promotion of Christian Higher Education (IAPCHE)  ・ Food for the Hungry International Federation (FHIF)  ・ Asia Theological Association (ATA)</p>	<p>本学の加盟する国際団体が主催する会合や研修会に以下の通り教員を派遣し、大学運営やFDに関する知識を広げ、国際的なネットワーク作りに努めた。  ・ CCCU President's Conference  於 米国、1/29-2/1、学長参加。  ・ International Association for the Promotion of Christian Higher Education (IAPCHE) Faculty Enrichment Program  於 ニュージーランド、10/1-6、教員1名参加  ・ Food for the Hungry International Federation (FHIF) International Prayer Summit  於 韓国、10/10-12、教員名参加  ・ Asia Theological Association (ATA) 関連団体 ICETE 2012 International Consultation for Theological Educators  於 ケニア、10/15-19、教員1名参加</p>
<p><b>⑫学生募集</b>  a. 学内事業</p>	
<p>(ア) 学生募集委員会  月に2回開催。</p>	<p>12回実施 (4/10、4/26、5/15、5/31、6/28、9/4、10/10、10/30、11/13、1/15、2/12、3/11)。</p>
<p>(イ) オープンキャンパス  4月4日(水)、5月4日(祝金)、6月23日(土)、7月21日(土)、8月25日(土)、10月8日(祝月)、11月3日(土)、1月26日(土)  一日体験入学対応(目標30名)</p>	<p>4/4(0名参加)、5/4(15名参加)、6/23(4名参加)、7/21(5名参加)、8/25(18名参加)、10/8(56名参加)、11/3(24名参加)、1/26(7名参加) 合計129名(昨年度114名/15名増)  ・ 高校3年生のOC参加者の出願率43%(15名出願)  ・ 11/3のオープンキャンパスはhi-b.a.と協力して11/2からの一泊キャンプを実施した(20名参加)。</p>
<p>(ウ) 前年度/2012年度 オープンキャンパス参加者へのフォロー(適宜対応)</p>	<p>リストをあげて教職員がそれぞれ対応した。</p>
<p>(エ) 前年度/2012年度資料請求者へのフォロー(適宜対応)</p>	<p>オープンキャンパスの案内を送付し、見込み者のリストをあげて教職員がそれぞれ対応した。</p>
<p>(オ) TCU生の学生募集活動への巻き込み</p>	<p>学生広報スタッフ6名が学生ブログの書き込み、オープンキャンパス宿泊者の対応、11/2-3一泊キャンプの企画などを行った。</p>
<p>(カ) TCU支援会と連携協力</p>	<p>キャンプ訪問を行なったほか、福祉学生募集において各地区支援会メンバーに協力を依頼し、地区支援会関係教会(2教会)から2名の入学者があった。</p>
<p>(キ) 学長室広報との連携協力</p>	<p>『大学報』4・7・12月、福祉専攻奨学金・2年次編入チラシを作成し、各教会・同窓生に送付した。</p>

計 画	報 告
b. 訪問事業（教会系）	
(ア) 出願候補者がいる教会への訪問等（通年）	見込み者のリストから、適宜電話や訪問を行い、1教会より1名の入学者があった。
(イ) TCU卒業生牧会教会、100人以上の支援教会等（通年）	候補者のいる教会等への対応を優先しつつ、適宜訪問や牧師との面会を行った。
(ウ) 新入生所属教会への訪問（通年）	9教会を訪問し、訪問教会より1名の入学者があった。
(エ) 「教会音楽専攻科」アピールのための教会等訪問（年3回ほど）	公開講座、講習会等の案内発送時に教会音楽専攻の案内を同封し、開催当日に参加者に再度案内を配布しアピールした。教会からの音楽講師依頼に対しても積極的に対応した。音楽非常勤教員からも入学の可能性のある聴講生等に積極的にアプローチいただいた。こうした取り組みもあり、2013年度、3名の入学者が与えられた。
(オ) 新規教会の開拓	支援拡大のため行なっている職員の教会訪問活動と連携し、必要と思われる教会（9教会）を、入試・広報担当職員が再訪した。
c. 訪問事業（その他）	
(ア) ミッションスクール訪問（目標10校）（通年）	23校を訪問し、19校の指定校を得た。また訪問した高校から1名入学した（指定校からの出願はなかった）。
(イ) キャンプ訪問（通年）	夏のキャンプ16箇所、春のキャンプ9箇所を訪問した。
(ウ) 全国・地区 教団総会、牧師会訪問（通年）	JECA全国総会、JEA総会、日本青年伝道会議において広報活動を行なった。
(エ) 福祉関連施設／教会での模擬授業・講演（通年）	キングスガーデン協力牧師会に所属する教会を中心に、教員が日曜日礼拝に出席し、福祉学専攻をアピールした（7月から開始し3月までに30教会を訪問）。また、福祉学専攻教員がキングスガーデン及びいくつかの教会から研修講師を依頼され担当した。さらに福祉を併設している教会や福祉施設設立を検討中の教会とも交流を図った。11/17に第1回TCUケアチャーチオープンセミナーを開催し（57名参加）、キリスト教福祉学専攻の積極的なアピールに努めた。
(オ) チャーチスクールへの訪問・模擬授業（通年）	13校を訪問し、チャーチスクールでの講演（1校）、模擬授業（1校）を実施した。訪問校1校から2名の入学者があった。
(カ) チャーチスクール協定校との協力関係発展強化（通年）	協定校が10校となり、協定校から1名の入学者があった。
(キ) アジア神学コース学生募集（通年）	インド、ネパールを訪問した。
③広報	
a. 印刷製本費・送料関係	
(ア) 大学案内作成、配布	4月に完成・配布。
(イ) オープンキャンパスハガキ、チラシの作成	4月に完成・配布。
(ウ) 「大学報」年3回発行・配布。神学校が閉校したことにより、従来の「学園報」を「大学報」として発行する。	4月・7月・12月に作成・発行。
(エ) 教会教職課程の新パンフレット作成	6月に完成・配布。
(オ) 英語版パンフレット作成	福祉奨学金及び2年次編入チラシを作成したため、英語版の作成は次年度以降に行うこととした。
(カ) 学園報座談会ブックレット作成	3月に完成。
(キ) クリスマスカード作成	11月作成、12月発送。
(ク) オープンキャンパスグッズ（随時）、記念品の作成	6月にボールペンを作成。 10月に切子グラスを作成。
(ケ) 次年度大学カタログ（修正版）作成	3月に完成・配布。
(コ) 別冊福祉ブックレット作成の検討：いのちのこば社と協力して、クリスチャン高校生向けの福祉に関するブックレットの出版を検討する。	引き続き次年度に検討。
b. Web関係	
Webサイトをリニューアルし、運用する。動画コンテンツ、ソーシャルメディアとの連携を強化し、双方向のコミュニケーションを図る。	4月にリニューアル Facebookによる双方向コミュニケーション実施。

計 画	報 告
c. 以下の媒体に広告を掲出する。	
(ア) いのちのことば社関係 (クリスチャン新聞、百万人の福音、福祉の本)	クリスチャン新聞に年間6回、百万人の福音に年2回、福祉関連書籍 (4月) に広告を掲出した。
(イ) キリスト新聞	11月に掲載した。
(ウ) ちあにっぽん	春・冬号に掲載した。
(エ) Japan Harvest	3回の掲載を行なった。
(オ) その他	JECA祈りのハンドブック、日本青年伝道会議プログラムに掲載した。
d. 看板関係	
大学院開設に伴い、校名板・看板・構内案内図を修正する (総務課と連携)。	4月に修正版が完成し設置した。
e. 学生広報スタッフ	
学生の視点からの広報展開を検討し、ソーシャルメディアを活用しながら入試広報を展開していく。	学生広報スタッフによるブログの更新、映像制作を実施した。
<b>⑭TCU支援会・募金</b>	
a. 募金目標	
明日の世界宣教者育成募金：15,000万円	4,953万円
内訳：大学献金 13,000万	4,212万円
大学院設立献金 1,000万	200万円
夏期伝道献金 150万	150万円
教会音楽献金 300万	72万円
留学生奨学金基金 250万	240万円
教会教職者志望学生奨学金基金 300万	79万円
b. 重点活動	
(ア) TCU支援会 支援センター会合の開催。	5/17、6/13、7/31、9/12、10/31、12/12、1/23、3/6 8回実施。
(イ) 各地区支援会の運営補助、立ち上げ。	関東、新潟、愛知、沖縄、広島、関西 教員派遣実施 3/25全国会議実施
(ウ) 学園デー (TCUのつどい) の開催。	関西、岡山、倉敷、福岡・山口、関東、四国実施。
(エ) 特別支援会員の開拓。	留学生奨学金のお願い7月実施。 学生在籍教会、父母、保証人へのPR8月実施。
(オ) PR環境整備。	
・TCU支援会パンフレットの作成 (4月)。	4月実施。
・TCU支援会ホームページの作成 (4月)。	4月実施。
(カ) PR活動	
・大学報内支援会ページの作成 (4月、7月、12月)。	4月、7月、12月に実施。
・寄付金の年度集計及び礼状の作成 (4月)。	4月実施。
・入会案内の単独発送 (5月)。	5月実施。
・入会礼状・領収書の発送 (随時)。	随時実施。
・夏期特別献金のお願い (7月)。	7月実施。
・冬期特別献金のお願い (12月)。	12月実施。
・特定公益増進法人への税制優遇措置案内 (1	1月実施。
・訪問PR (随時)。	随時実施。 職員の教会訪問を133件実施した。 関東、及び三重県の特別支援教会を訪問。

計 画	報 告
<b>(2) 神学部</b>	
<b>①神学部</b>	
<p>キリスト教世界観に基づくリベラルアーツ教育と、神学、国際キリスト教学、キリスト教福祉学の各分野の専門教育の充実を図る。専攻の多様化に伴い、学科・専攻教員会を通して、学科・専攻毎の専門教育を充実させる。また、教会音楽専攻科の学生募集にさらに力を注ぐ。</p> <p>学部全体として、グローバルなキリスト者を養成するために現存の教育課程をさらに充実させる。神学科教会教職専攻は、神学研究科との連続と区別を明確にしつつ、より良いものとする。キャリア教育を学部全体の教育課程に反映させるとして、学部全体の就職支援を充実させる。</p> <p>学部全体として、各学科・専攻の次年度入学定員の確保を最低限の目標として学生募集に総力を挙げて取り組むとともに、入学定員の拡大のために努力する。</p>	<p>キリスト教世界観に基づくリベラルアーツ教育は、現行のカリキュラムに基づき実施した。学科専攻教員会の開催と卒業生へのディグリー・ポリシーに基づく個人面談を通して、専門教育について評価を行った。</p> <p>グローバル化する世界における教育的対応を検討するために、夏にファカルティ・フォーラムを実施した。キャリア教育は、カリキュラム全体を通してなされている。就職支援は組織的になされたことを反映して、非常に高い就職率となっている。</p> <p>学生募集の面では、さらに組織的に取り組んだ結果、2013年度入試では、国際キリスト教学専攻で入学定員を上回ったが(11名)、福祉専攻は5名、神学科は7名であった。</p>
<p>アジア神学コースの自費学生増加を目指し、East Asia Instituteの学生を15名程度獲得することを目指す。</p> <p>世界宣教を掲げる大学として、国際性を身につけさせるために、バイオラ大学との交換留学制度を有効利用し、他の協定校への派遣を検討するとともに、受け入れ留学生との異文化理解の実践的教育を行う。また、アジア地域の大学との交流についても働きかける。</p> <p>国際キリスト教福祉学科キリスト教福祉学専攻については、本学の取り組みを広く教会と受験生に訴え、教会のミニストリーの進展と学生募集につなげてゆく。また、国際キリスト教学専攻の教育内容の特徴をより明確にし、学生募集につなげる。</p> <p>ファカルティ・デベロップメントをさらに充実させ、教育研究の質の向上を図る。</p> <p>大学院設置を受け、また、各専攻の教育研究内容を公表するために大学全体としての出版計画を検討・立案する。</p>	<p>アジア神学コースには6名を受け入れ、内1名は自費学生である。EAIは5名の学生を受け入れた(米国より4名、インドネシアより1名)。バイオラ大学には、秋学期に1名を派遣している。</p> <p>多くの留学生を迎えるなか、学生間での異文化理解の実践力を伸ばさせる必要があり、「キリスト教世界観」の授業において異文化理解の要素を強化することを決めた。</p> <p>キリスト教福祉学専攻の学生募集については、教員が積極的に募集活動を行った。</p> <p>国際キリスト教学専攻では、英語教育をさらに強化するためのカリキュラム改革を実施した。</p> <p>大学と大学院の教育内容を公表するために「大学報」に掲載した研究科・学科・専攻・副専攻についての特集を、『TCUの挑戦—教会と社会に仕える』(TCUブックレット1)として出版した。</p> <p>学生募集の現状に鑑み、2014年度より以下の編入・入学定員の変更を行うことを決定した(神学部全体の定員160名は変更なし)。</p> <p>[入学定員]  神学科：15名 → 17名  国際キリスト教福祉学科：20名 → 16名  (国際キリスト教学専攻：8名、キリスト教福祉学専攻8名)  [3年次編入学定員]  神学科：10名 → 14名  * 但し、収容定員160名を越えることがないように、2014、2015年度は神学科3年次編入学定員を12名としている。</p>
<b>②神学科</b>	
<p>3年次編入の教会教職専攻生と神学専攻生が共に学ぶ体制の3年目を迎え、現行の教育の充実を図る。</p> <p>神学専攻の学生に向けては、近年における就職難の中で、4年間で卒業する学生のキャリア支援を充実させる必要がある。</p> <p>教会教職専攻の教育については、学部教育と大学院教育の連続性を図りたい。</p>	<p>3年次編入の教会教職専攻生と神学専攻生が学部教育の後半(3年次と4年次)で共に学ぶ体制が出来上がって3年目、教会教職専攻の一期生が4月から新設された大学院で学んだ。神学専攻生のなかからも大学院研究科の研究者コースに進学する者が出た。徐々に目指すものが整えられて、充実した形を取りつつある。学部教育4年間で就職を希望する神学専攻生の就職をキャリア支援室が中心となって支援する体制が整備されてきた。教会教職課程から教団立や海外の神学校に進学する者もあり、神学専攻から大学院に進学する者を合わせても大学院に進学する者が当初の予想よりも少ない結果となった。</p>

計 画	報 告
<p><b>③国際キリスト教福祉学科</b></p> <p>キリスト教世界観に立つ本学科の教育理念を、神学科との区別を明確にする形で実現させる。そのためには、引き続き、国際と福祉の働き人育成のためのリベラルアーツ教育、ボランティア・スピリットと隣人愛に富んだワーカー育成のための人格教育に特に力を入れる。</p> <p>また、両専攻間のカリキュラム調整を行い、「内外の奉仕者養成」とともに、希望する学生には神学の科目の履修の便宜を図る。</p>	<p>国際キリスト教専攻とキリスト教福祉学専攻の働き人育成のためのリベラルアーツ教育、ボランティア・スピリットと隣人愛に富んだワーカー育成のための人格教育という特徴が生かされ、福祉専攻への関心が募集段階の入試以前よりもむしろ入学後に高まっていくことを確認した。また、両専攻間のカリキュラム調整を行い、双方の特色を強化するために、「国際」は“ビッグイングリッシュプログラム”に向けた準備を行い、「福祉」は特別奨学金を導入した。そのために両専攻とも前年度よりも入学者数が増加した。世界の異文化への関心、生活領域である地域への関心といった、グローバルかつローカルな教育の特色が出始めた年であった。</p>
<p><b>a. 国際キリスト教専攻</b></p> <p>現行カリキュラム5年目に際し、専攻の特徴をより明確に打ち出すためのカリキュラム上の工夫や改革についての検討を進め、特に語学力の強化、実習の充実、進路指導との連携を図る。あわせて外部の関連諸団体との関係づくりを進め、学生募集、実習、進路のための活路を開くための工夫を模索する。</p>	<p>英語教育強化のカリキュラム改善“ビッグイングリッシュプログラム”を2013年度入学生から導入するための諸準備がほぼ完成した。2014年度に実施する英語研修先の確定のみ次年度に持ち越した。教員転出にともなう後任人事も来年度に持ち越した。</p>
<p><b>b. キリスト教福祉学専攻</b></p> <p>本専攻の完成年度を過ぎ、その点検と評価の上に立って、さらに充実した授業と実習を提供する。また、教会における福祉的なミニストリーの開発のために本の出版をして、これを特に教会訪問などを活発にしつつ学生募集の現場で活用していきたい。また、学生の実習先の福祉施設と協力して地域福祉の社会資源として本学がどのように貢献できるかを探りたい。2012年度から専門カリキュラムに「医療的ケア」の基本研修（講義形式・実時間で50時間以上）と演習が改正追加されるに伴い、そのための準備に入る（2年生の専門科目ゆえに2013年度から実施）。</p>	<p>(1) 「医療的ケア」は2014年度中の開設に向けて、専任教員の研修受講が修了し、必要物品の整備を進めている。</p> <p>(2) 教会の福祉を担う人材育成を目的とした本学独自の認証制度については、引き続き検討を行なっていく。</p> <p>(3) 身体障がい者関連施設2、知的障がい者関連施設1、高齢者グループホーム1施設と契約し実習を開始した。このため、在学生数に対する実習先は必要数以上に確保している。現在、定員20名時に向けた実習先確保を進めている。</p> <p>(4) 5年後に定員20名を目標としていたが、これまでは現在の定員（10名）を満たしておらず、定員確保に向けた学生募集活動を検討・実施中である。専任教員は、毎年の春期・夏季休暇での教会関連キャンプ訪問を行い学生募集活動を行った。またキングスガーデン支援教会（約30教会）を重点的に訪問した。2012年3月に刊行された本専攻教員らによる著書『これからの福祉と教会』（いのちのことば社）は、初版が完売となり、このテーマに対する関心の高さが窺える。2013年度は、これら以外に4-7月には関東周辺の福祉事業を行っているキリスト教会への訪問を実施する。</p>
	<p>(5) 教会を支える人材、将来的に福祉のリーダーを目指す人材、特に編入生を受け入れやすくするために、キリスト教福祉学専攻特別奨学金（最大5名）を創設した。その結果、2013年度生は4名の奨学生を採用した。外国人留学生（特に韓国籍の学生）に関しては、就労ビザの関係で日本では働けないが、母国のキリスト教福祉発展のためは本学での学びが重要であるため、今後も検討する。</p> <p>(6) キリスト教会が地域福祉の社会資源として貢献するため、地域の教会の福祉活動の応援やネットワーク作りを中心としたケアチャーチプロジェクトを立ち上げた。これまで、協力牧師・クリスチャン福祉事業家と2度の会議実施し、11月には教会の福祉の働きを発表するオープンセミナーを開催した。2013年4月にもセミナーを開催予定。</p> <p>(7) 国家試験受験資格要件の「実務者研修」開設のため、課程（通学・通信）、教員要件、申請手続きを検討した。今後も地域貢献および本学の建学の精神の視点から検討していく。</p>

計 画	報 告
<b>(3) 神学研究科</b>	
<p>従来東京基督神学校および神学科「教会教職プログラム」によって行ってきた教会教職者養成の継続と発展に努める。</p> <p>教会教職課程後期に相当する神学研究科においては、学部における神学専門基礎教育を踏まえて神学専門教育を行い、研究力と実践力を相互研鑽の中で養う。</p> <p>設置初年度でもあり神学研究科委員会を通して教員相互の連携を図り、定員の充足も含めて設置趣意の達成に努める。</p>	<p>初年度17名の学生を迎えた。学部での神学専門基礎教育を踏まえ、演習を中心とした学生参加型の教育を実施した。論文指導はカリキュラムが格段に充実し、教会実習や教会インターンでの体験を実践神学演習のクラスで検討するなど、実践的な教育を発展させた。研究科委員会では、教員の連携を図り、教授法や学生指導に関する意見交換の時を持った。定員の充足については、学部からの内部進学希望者や外部からの問い合わせに適宜対応した。</p>
<b>(4) 教会音楽専攻科</b>	
<p>引き続き鋭意学生募集に励むとともに、入学生の対応に心砕く。</p>	<p>2012年度は在学生の進路変更により在籍がなくなったが、2013年度、3名の声楽専攻学生が与えられている。</p>

計 画	報 告
<b>(5) 教務部</b>	
<b>①教務</b>	
a. 新教育課程の検討。	
(ア)初年次教育(キリスト教世界観、キャリア教育など)の検証と関連性の確認。	2013年度、引き続き教育研究・カリキュラム委員会にて審議を進める。
(イ)各学科・専攻の専門科目の検証と関連性の確認。	2013年度、引き続き教育研究・カリキュラム委員会にて審議を進める。
神学科は、神学研究科との連続性と区別の確認。	聖書言語を担当する教員で数回会議を開き検討を行った。
国福学科のうち国キ専攻は、語学力の強化・実習の充実。	2013年度より、特に英語の語学力強化のための新規科目を設定した。
福祉専攻は、新しい科目導入の準備。	法改正に伴い、科目「医療的ケアⅠ・Ⅱ」をカリキュラムに追加した。教員が研修会に参加し、また必置備品も購入するなど準備を進めた。
(ウ) キャリア教育の要素を各提供科目に敷衍させる仕組みづくり。	2013年度、引き続き教育研究・カリキュラム委員会にて審議を進める。
b. GPA制度の検証と見直し。	2013年度、引き続き教育研究・カリキュラム委員会にて審議を進める。
c. 神学研究科を含めた教務部体制の構築。	多岐にわたる業務を含む教務部であるが、各担当の役割分担と連絡体制を整えることがきている。
d. 新しい学習支援クラス体制の確立と実践。	前学期のGPA1.80以下の学生を対象とした、週1回1時間のピアチュータリングによる学習支援を実施した。対象者は春学期7名、秋学期8名。冬学期8名。
<b>②生涯学習</b>	
a. エクステンション	
(ア) 高座エクステンション	9/18、9/15、10/13、10/20 「般若心経の空とキリストにある空」 講師：大和昌平、受講生数：60人
(イ) 東海エクステンション	実施せず。
(ウ) 丸の内エクステンション	実施せず。
(エ) 1箇所(希望が丘)の地方エクステンションを新規開拓。	希望が丘エクステンション「宣教的な教会へ」 6/9、6/16 講師：倉沢正則、受講生数：31人
b. 履修証明プログラムの継続。	新規2名
c. 予算方針に鑑み、2013年度以降のエクステンション事業の検討。	c. 2013年度に新規のエクステンションを開拓し、2012年度に開講した高座エクステンションと希望が丘エクステンションは継続とする。

計 画	報 告
<b>③入試</b>	
a. 入学者選考の適正化と充実をはかるため入学者選考委員会および各小委員会を実施。	
(ア)入学者選考委員会、各小委員会の実施。	入学試験委員会及び各小委員会を実施した。
b. 入学試験の実施 * 神学：神学専攻、教会教職：教会教職専攻、シニア：シニアコース 国キ：国際キリスト教学専攻、福祉：キリスト教福祉学専攻	
(ア)一般入試（秋季入試：6月27日、第Ⅰ期：2月7日、第Ⅱ期：3月14日）	秋季入試（帰国学生特別選抜）：出願者なし。 第Ⅰ期 （帰国学生特別選抜） 出願者：1名（国キ1名） 受験者：1名（国キ1名） 合格者：1名（国キ1名） 入学者：1名（国キ1名） （編入学者選抜） 出願者：7名（2年次福祉1名、2年次神学1名、3年次教会教職5名） 受験者：7名（2年次福祉1名、2年次神学1名、3年次教会教職5名） 合格者：7名（2年次福祉1名、2年次神学1名、3年次教会教職5名） 入学者：6名（2年次福祉1名、3年次教会教職5名） 第Ⅱ期 （編入学者選抜） 出願者：6名（3年次神学1名、3年次教会教会教職5名） 受験者：6名（3年次神学1名、3年次教会教会教職5名） 合格者：6名（3年次神学2名、3年次教会教会教職4名） 入学者：6名（3年次神学2名、3年次教会教会教職4名）
(イ)推薦入試（11月29日）	<u>推薦入学者選抜</u> 出願者：6名（国キ2名、福祉4名） 受験者：6名（国キ2名、福祉4名） 合格者：6名（国キ2名、福祉4名） 入学者：5名（国キ2名、福祉3名）
(ウ) A0入試（第1回目：9月7日、第2回目：11月29日）	<u>第1回A0入学者選抜（編入学者選抜A0方式）</u> 出願者：9名（神学3名、シニア3年次編入1名、国キ4名、福祉1名） 受験者：9名（神学3名、シニア3年次編入1名、国キ4名、福祉1名） 合格者：8名（神学2名、シニア3年次編入1名、国キ4名、福祉1名） 保留：1名（神学1名）※追加合格（12/6） <u>第2回A0入学者選抜（編入学者選抜A0方式）</u> 出願者：12名（神学3名、神学2年次編入1名、シニア3年次編入1名、神学3年次教会教職編入2名、国キ4名、福祉1名） 受験者：12名（神学3名、神学2年次編入1名、シニア3年次編入1名、神学3年次教会教職編入2名、国キ4名、福祉1名） 合格者：12名（神学3名、神学2年次編入1名、シニア3年次編入1名、神学3年次教会教職編入2名、国キ4名、福祉1名） 入学者：12名（神学3名、神学2年次編入1名、シニア3年次編入1名、神学3年次教会教職編入2名、国キ4名、福祉1名）
(エ)教会音楽専攻科入試（第1回目：11月27日、第2回目：2月7日）	第1回教会音楽専攻科入試 出願者：1名、受験者：1名、合格者1名、入学者1名 第2回教会音楽専攻科入試 出願者：なし 第3回教会音楽専攻科入試 出願者：2名、受験者：2名、合格者：2名、入学者：2名

計 画	報 告
(オ)アジア神学コース入試(書類選考/電話面接:2月、現地面接/筆記試験:3月)	アジア神学コース入試 出願者:44名、受験者:44名、合格者:11名、入学者:6名
(カ)大学院神学研究科入試(一般・留学生(第一期):10月16日、(第二期):2月26日、内部推薦:12月21日)	一般・留学生(第一期):出願なし 一般・留学生(第二期):出願者4名、受験者3名、合格者3名、入学者2名 学内推薦:出願者12名、受験者12名、合格者12名、入学者12名
c. 入学定員に対して適切な学生の受け入れを推進する。	
(ア)神学科定員 15名	神学科定員15名に対して12名入学。
(イ)国際キリスト学専攻定員 10名	国際キリスト学専攻定員10名に対して11名入学。
(ウ)キリスト教福祉学専攻定員 10名	キリスト教福祉学専攻定員10名に対して5名入学。
(エ)神学科3年次編入定員 10名	神学科3年次編入定員10名に対して15名入学。(11名教会教職、2名神学、2名シニア)
(オ)教会音楽専攻科定員 5名	教会音楽専攻科定員5名に対して3名入学。
(カ)大学院神学研究科定員 18名	大学院神学研究科定員18名に対して14名入学。
d. 募集要項の作成および出願書類の管理。	
(ア)昨年から引き続き入試事務室(本部棟2F)を設置し、入試問題の作成や受験生資料の管理を行う。	計画どおり実施した。
e. 合格者に対する入学前教育を実施する。	
(ア)対象:第1回、第2回A0および推薦入試合格者。	第1回・第2回A0入学者選抜合格者、推薦入学者選抜合格者に入学前教育を実施した。
(イ)内容:「教会生活日記」と「聖書通読」を課す。	
<b>④教員支援</b>	
a. 大学院が設置されるのを機に、TA(ティーチング・アシスタント)・RA(リサーチ・アシスタント)の制度を実施する。	新設TA制度を実施した。
b. 2012年度の個人研究費受給者は25名。またサバティカル・リーブ取得者は5名である。	計画通り実施した。
c. ファカルティー・ディベロップメント委員会。	
(ア)教員研修会の企画・実施。	ファカルティーフォーラムとして実施。 8月29日(水)「TCUに求められているグローバル化教育と国キ学専攻」
・授業外での学習を含む授業のプランニング(ポートフォリオ形式の授業)。	教授会内でのワークショップを行った。
・本学におけるLearning outcomes(学習成果)の判断について。	学習成果、また教育改善のPDCAサイクルのため、「卒業前学生アンケート・面談」「学修ポートフォリオ」を実施した。
(イ)研修(教授会内研修、ワークショップなど)の企画・実施。	研修を受けてのワークショップは行えなかったが、年2回のワークショップを教授会内で行った。
・夏の研修会をうけてのワークショップ(数回)	
・成績評価に関するワークショップ。	
(ウ)相互授業参観・評価会の企画・実施。	3学期にわたり、教員がペアになり実施した(授業実施1回、評価1回)。
(エ)アカデミック・ポートフォリオの推進と活用。	学部長面談にも活用し、教育改善を行っている。3月末に収集し、本学ウェブサイトにて公開している。 <a href="http://portfolio.tci.ac.jp/us2.php">http://portfolio.tci.ac.jp/us2.php</a>
(オ)FD活動報告書作成。	6/13刊行。
(カ)FDハンドブック作成。	2013年4月に学務システム上で公開。

計 画	報 告
(キ) その他。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外研修参加（各校FD機関主催・文部科学省等のセミナーへ1-2回）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/1 教育ソフトウェア大学FD勉強会2012参加。</li> <li>・10/6 法政大学第10回FDシンポジウム参加。</li> <li>・10/27 法政大学情報メディア教育研究センターシンポジウム2012参加。</li> <li>・11/29-30 大学等における男女共同参画推進セミナー参加。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員研修のプログラムの検討継続。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年度に向けて新任教員研修プログラムを準備した。</li> </ul>
<b>⑤教育情報</b>	
a. 教室へのプロジェクタの設置。	6月中5教室設置。2月大学院棟の一室に設置。
b. TCUオンライン利用推進。	2013年度にTCUオンラインのシステム更新のため延期。
c. 教育コンテンツ・プラットフォームの検討。	2013年度引き続き調査。
<b>⑥イスラエル・スタディツアー</b>	
2014年3月に実施予定。	伊藤明生教授を団長とする第10回ツアー（3/13-26）を実施した。
<b>⑦神学研究科</b>	
a. 教会との連携の維持と強化：実践神学演習、教会インターン、FCCセミナー。	計画通り実施した。FCCセミナーについては、17頁「国際宣教センター」を参照。
b. 学期中各月（年9回）の研究科委員会実施。必要に応じて臨時開催。	計画通り実施した。
c. 神学研究者・教師者コースの学生への教会教職課程後期に相当する指導及び進路指導。	計画通り実施した。
d. 設置趣意の冊子作成、全学的な情報共有。	『教会と社会の未来を切り拓くために－東京基督教大学大学院の理念と概要』を刊行した（本学ウェブサイト「大学院の理念と概要」として掲載 <a href="http://www.tci.ac.jp/theology_department/graduate/">http://www.tci.ac.jp/theology_department/graduate/</a> ）
<b>⑧音楽関係</b> * 学内コンサート、卒業記念コンサートは音楽アカデミーより移管	
(ア) 学内コンサート…実技レッスン受講生による発表の場としてのコンサートを開催（出演者の状況をみて判断）。	10/12、19の2日間で実施。9名の学生が出演。
(イ) クリスマスコンサート…クワイアクラス受講生により、クリスマスに相応しい曲の演奏と合唱のコンサートを開催。	教会音楽アカデミー参照。
(ウ) 卒業記念コンサート…卒業生予定者の独唱・独奏また合唱サークル木声会による合唱を中心としたコンサートを開催。	2/15に実施。卒業予定者5名とクワイア受講生が出演。

計 画	報 告
<b>(6) 学生部</b>	
<b>①学生課</b>	
a. 健康相談室 (校医：稲葉、森)	
(ア) 健康相談日：各学期に2回校医が健康相談室で相談を受付 (年6回)。	5/29、6/26、10/3、11/5、1/21、2/19に実施。
(イ) 看護師勤務：健康相談日補助 (年6回)。	同上。
(ウ) 2013年度からの校医候補者探し。	清水清美医師と契約。
b. 定期健康診断 (学園)	
日程：4月5日 (木) 予定	4/5に実施 (学生162名、教職員36名が受診。献血協力実施受付数42名)。
c. 夏期学生派遣プログラム (夏期伝道)	
日程：7月7日 (土) - 16日 (祝)	夏期伝道、全10チーム (被災地・岩手、福島への2チーム含む) を全国へ派遣。参加人数68名 (同行教員3名、祈りのメンバー11名を含む)。
d. スプリングリトリート	
日程：5月23日 (水) - 25日 (金) 場所：蓼科パークホテル (長野県茅野市北山)	講 師：大竹海二 テーマ：Jesus Christ ~ Back to Our Starting Point 参加者：学生162名、教員13名、職員2名、他 (学生・教員家族) 3名、合計180名
e. 学生相談室	
外部カウンセラーが週1回勤務予定 (2名で隔週勤務体制)。	春学期から2名体制で月曜と火曜隔週で全10回、秋学期は火曜と水曜隔週で全10回、冬学期火曜と水曜隔週で全10回学生相談を行った。ブレイクタイムを含む延べ来談者数162名、延べ面談者数77名。
ブレイクタイム：学期末ごとに1回ずつ実施予定。	春学期6/28、秋学期11/16、冬学期2/26に実施。
学生相談室便りを学期に1回発行予定。	春学期と冬学期に発行。
精神ケア学び会の開催を継続。	3/15「学べない大学生たち - 全入学時代の大学生の学習 & 学習危機」をテーマに精神ケア学び会を開催した (教員12名、職員12名出席)。
f. 学園派遣海外ワーカー	
キリスト教団体の海外ワーク参加に対して補助金を出し、異文化体験を促す。	2回の公募に対して本年度は応募がなかった。大学からの補助金額や学生たちの経済状況、年度末のイスラエルツアーなどが理由として考えられる。
g. 障がい学生修学支援委員会	
聴覚障がい学生が在学している場合の講義保障の実施	今年度は支援を必要とする学生がいなかった。
h. 実習教会牧師との懇談会	
実習教会牧師と懇談する機会を設け、実践神学実習について話し合う (4月実施)。	5/7に実習教会牧師との懇談会を開催した (参加牧師12名)。
i. シオン祭	
日程：10月8日 (月祝)	Homecomingというテーマで、ナイトdeライトをゲストに、東京電機大学、船穂中学校など地域と連携して開催。TCU支援会主催の祈りのコンサートを実施 (受付をした来場者数は867名)。

計 画	報 告
j. 奨学金	
各種奨学金を奨学金委員会で選考のうえ、教授会で審議決定し支給・貸与する。	<p>(ア) オンヌリ教会奨学金を2名に支給。  (イ) 上田メソッド奨学金を学部生6名、大学院生1名に支給。  (ウ) 学内奨学金は4月に公募、委員会で選考の後、6月の教授会で決定し、34名に総額9,736,000円を授業料と相殺支給した。</p> <p>授業料半額・1/4給付(14名 2,745,500円)、震災被災者支援(1名 給付305,000円、貸与195,000円) 三谷(1名 70,000円)、ホーク(1名 80,000円)、共立元木(6名 840,000円) 教会教職課程(新入生11名 1,972,000円、学部7名 1,900,000円、大学院10名 3,548,000円)、日本宣教コース(1名 360,000円) 日本宣教留学生(6名 600,000円)、学園留学生(10名 2,008,000円)</p>
<b>②キャリア支援</b>	
a. キャリア教育科目の実施(秋学期)	
(ア) キャリア支援室の教職員による講義。 (イ) リアセック株式会社によるグループワーク (ウ) 外部ゲスト講師による講師。 (エ) キャリア教育を本学の理念に照らし、学部全体の教育課程に反映させ、進路支援をより一層充実させる。	「キャリア教育」を初年度職業教育科目に位置づけて1年次必修科目として実施。早期から学生の職業観等の醸成を図り、4年間の学生生活や卒業後の進路の連続性を意識させることを他部署との連携を図りつつ指導を行った。
b. 就職支援(社会人基礎力養成)各講座の実施(主に2、3年生向けに実施予定)	
(ア) 自己分析講座 (イ) SPI対策講座。 (ウ) 就活社会人マナー講座。	各種就活対策講座(自己分析講座、業界研究対策講座、就活マナー・メイク講座、自己PR+面接練習セミナー、ビジネスマナー講座、求人票の読み方講座、SPI2対策講座、企業説明会)等を中心に実施した。
c. 個別相談による就職・キャリア支援(通年、全学年・全学科対象)	
(ア) 個別、グループ別など幅広い進路相談の実施。 (イ) 就職活動支援(エントリーシート、面接対策等)の実施。 (ウ) その他、就職支援に必要な業務。	教職員協働によるキャリア・カウンセリングが実施できる体制を整え、学生一人ひとりに合った進路指導ができるよう質の向上に努めた。
d. インターンシップの充実。	
(ア) 事前指導、事後報告を含めた科目とする。 (イ) インターンシップ先との連携。	初年度に実施しているキャリア教育からの連続性を保つために「インターンシップ科目」の充実を図った。具体的にはキャリア支援室が斡旋する実習先企業の開拓を進めた。また、教務課と連携し、学生が履修しやすいよう履修登録時期についても実習前の登録から実習後の登録へと変更し、無理なく学業とインターンシップの実習を両立できるように配慮した。
e. 新規求人先の開拓	
(ア) 3年生の志望動向を見ながら、求人先の開拓を促進する。 (イ) 企業推薦枠の充実をはかる。	2012年度の新規開拓企業は10企業に達した。学生の多様化したニーズに対応できるよう様々な分野からの求人を開拓するよう心がけた。また、企業推薦枠についても3企業と提携し、内定を得ることができた。

計 画	報 告
<b>③寮関係</b>	
a. 寮生活への支援と指導の充実	
(ア) 寮懇談会の実施。	4/24、5/29、6/26、9/18、11/6、12/6、1/22、2/19に開催し、寮生のリーダーたちと懇談・意見交換の場をもった。
(イ) 寮のリーダー（寮運営委員、共同体長、まごあ）の祝福チャペルの継続。	5/17に共同体長・まごあ祝福チャペルを実施した。
(ウ) Acts生活アドバイザーによるアジア神学コース新入生のサポートの継続。	男子寮5名、女子寮1名のアドバイザーを選任し、1月までサポートを行った。
(エ) 学生アドバイザーによる短期留学生の生活サポート、プリペイド携帯の貸与。	EAI男子寮1名、女子寮4名に対し、プリペイド携帯を貸与。男子寮1名（Acts生活アドバイザーと兼務）、女子寮1名のアドバイザーを選任し、帰国日までサポートした。
(オ) 寮主事を学生相談研修会に派遣する。	11/18-20の3日間、女子寮主事を派遣した。
(カ) 各寮で自主的な講演会を企画できるよう経済的支援をする。	家族寮からの申請を受けて、家族寮リトリートに補助を行った。
(キ) 日常的な健康管理の啓発の実施。	インフルエンザシーズンに備えて手洗い・うがい等の啓発を行った。
(ク) 男女子寮へ富士薬品常備薬の配備を継続。	今年度も富士薬品常備薬を独身寮に配備した。
(ケ) 食器洗い補填作業の継続（与えられた責任を最後まで果たすことを学ぶため）。	4/4-6、朝夕6回の食器洗い補填作業を実施した（補填対象者31名）。
b. 全人格的教育の充実に向けて	
(ア) 寮規約と寮運用規程を学生・教職員を含めて全学的に学ぶ機会を設ける。	寮生全員を対象に寮オリエンテーションを開催し、寮規約と運用規程について説明をした。教職員の学びは未実施であった。
(イ) 今後の寮教育の改善に活かせるよう、寮（施設・主事・スタッフを含む）に関して学生が評価できるシステムをつくる。	寮に関して学生が評価できるよう、自己評価書の設問や様式を大幅に改定した。
c. 環境美化	
(ア) 春学期初頭に寮と寮の周辺を中心に実施する。	4/5午前に実施した。軽トラで3往復分の不用品を処分した。
d. その他	
(ア) 危機管理の充実（防災関連マニュアルの見直し）。	見直し作業中。
(イ) 英語圏留学生対象防災訓練の実施。	9/24午前に実施。
(ウ) 独身寮浴槽の水質検査の実施。	2/12に浴槽の水質検査を実施し、問題は確認されなかった。

計 画	報 告
<b>(7) 図書館</b>	
<b>基本方針：</b> 図書館情報資源の質・量の拡充（資料目次情報など入力整備）、利用者サービスの展開	現状を認識して、さまざまな角度から検討、体制の見直しを行いつつ、利用者サービス強化に努め目標に取り組んでいる。神学関係の図書館として一定の水準への量・質的成長は進んでいると評価できる。音楽専攻科設置に伴う楽譜の補充、テスト前開館時間延長（23時まで）を今年度も実施した。また、時勢に対応すべく電子化への対応と情報収集も行っている。今後さらなる資料の利用・活性化を図っていきたい。
<b>主な事業</b>	
<b>[推進事業]</b> 大学院資料の整備（選書と購入）、蔵書点検（除籍含）	
<b>[改革事業]</b> 学生への学習支援、情報リテラシーサービスの強化	
<b>[試行事業]</b> ・オープンソースEnju図書館システムの試行運用による学内史資料の整理	
・雑誌図書-*.目次情報の入力 福音主義神学会との連携模索	
・機関リポジトリの稼動（教務課との連携）	
アーカイブの整理 歴史資料保存委員会と協力して、海外図書館見学 アジア神学関係図書館との協力、柔軟、即効ミニ展示企画、情報リテラシー授業の充実。	
<b>①資料の収集・充実（重点）</b>	
a. 大学院向け専門書選書購入（教務課と連携）オンライン資料の充実	・大学院向け専門書選書購入、整理を行った。 ・大学院授業科目教科書・参考文献、注解書の補充、キリスト教関係参考図書拡充を行った。 ・電子ジャーナル、オンラインデータベースの拡充を行った。
b. 文科省補助金申請を予定する。外部資金獲得	
c. 故小畑進先生（小畑家）からの寄贈図書第二段分の受入整理	
d. 学内資料の有効活用 音楽アカデミー室の楽譜、今泉文庫（神学校）の受入整理	
e. リベラルアーツ分野資料の拡充 新書文庫ブックレットの拡充（大学1、2年生用）	
f. 蔵書点検と除籍処理	
<b>②図書館活用の向上（学習支援、情報リテラシー教育の拡充）</b>	
a. 新入生・卒論対象者ガイダンス	・新入生ガイダンスを実施した。 ・初年次教育（基礎演習）授業一こまを司書が担当。教員との連携を通して情報リテラシー教育を推進した。 ・オンラインデータベース活用を推進した。
b. バイキング形式学生選択型年間ガイダンスの展開 ポイントラリー 達成感	
c. 初年度教育（基礎演習）の充実（教員、情報処理系職員との連携）	
d. オンラインデータベースの活用PR	
<b>③広報活動 「図書館だより」・図書館HPの充実</b>	
a. 専用ホームページ作成	図書館ウェブサイトをより利用しやすくリニューアルした。
b. 特集として「TCI教員が薦める本」を発行予定 従来の館報の特別号	
c. 図書館HP蔵書検索システムの機能向上	
d. 展示:毎月、先生からのお勧めの本を展示する	
<b>④図書館相互協力</b>	
a. 私立大学図書館協会・千葉県大学図書館協議会との相互協力	8/3、神学校図書館フォーラム（キリスト教神学図書館ネットワーク）を開催した。
b. 神学校図書館フォーラム開催予定 8月 会場 日本聖書神学校	
c. アジア神学校図書館協議会への連携模索	
	・英語多読コーナーの設置：専用棚、説明文などの追加を行った。 ・グループ・スタディ室にホワイト・ボードを設置した。 ・DVD、ビデオ棚を設置した。

計 画	報 告
<b>(8) 附属研究所</b>	
<b>①共立基督教研究所</b>	
a. 研究所全般	
外部資金（寄附金、助成金）の導入を図りつつ、公共福祉を柱とした活動の継続と充実を図る。	公共福祉を柱に、9月より福祉と民主主義をテーマとする「キリスト教（創発）民主主義研究会」を立ち上げて3ヵ月に1度のペースで活動を行うとともに、市民レベルの外部研究会「公共福祉研究会・東京」と連携した活動を行っている（原則として月1回開催）。また、国際宣教センターと連携した共同プロジェクトを企画し、2013年4月に民間研究助成（海外）を申請すべく準備を行った。 共立基督教研究所 研究助成は、共同研究1件、個人研究1件が採択され、研究が実施された。
b. 研究会活動	
公共福祉研究センター、基督教と日本文化研究会、および学外グループと連携して活動を行う。	
c. 共立基督教研究所 研究助成	
4月に個人研究2件（各200,000円/年）、共同研究1件（400,000円/年）を公募。	
<b>②国際宣教センター（FCC Faith and Culture Center）</b>	
a. 専門部会	
(ア) 千葉県キリスト教史研究部会	
・資料調査を継続する。	9/21「福田聖公会と聖公会の房総伝道」（講師：磯岡哲也氏）を実施した。
・上記研究のために科研費申請を行う。	
・上記の課題のために年3回の研究会を行う。	
(イ) 教職者の継続教育	
大学院における教会教職特別セミナーを、卒業生をはじめとする外部者に継続教育として提供する。	9回の教会教職特別セミナーを開催した（外部参加者20名。神学研究科報告を参照）。
(ウ) 実践神学研究会	
学内教員を中心とした研究会を行う。	以下の3回の研究会を開催した。 6/8「宣教の革新を求めて～データから見る日本の教会の現状と問題点～」（発表：柴田初男氏） 7/5「TCU学生の霊的涵養と倫理的指導の今後について」（意見交換・検討） 11/16「青年キリスト者への性教育をめぐって」（発表：竹内誠氏・木森隆）
b. 世界宣教講座	
世界宣教講座従来どおり継続する。	9/10-14「グローバル化時代の宣教」（講師：アンドリュー・ペー氏）を開催した。
C. 刊行物	
柴田初男著『宣教の革新を求めて～データから見る日本の教会の現状と課題（FCCブックレットNO.8）』を刊行した。	
<b>③教会音楽アカデミー</b>	
a. 演奏会部門	
(ア) 公開コンサート、公開講座の開催	
・「パイプオルガンさんこんにちは」講師による演奏及び解説。来場者にパイプオルガンに触れて頂く試奏の機会を設ける。千葉ニュータウンの地域住民に学園を紹介できる良い機会となるよう務める。	5/19「パイプオルガンさんこんにちは」Vol.12を開催。テーマ：「星野富弘の世界」ソプラノ：西 由紀子、オルガン：宇内千晴 200名近い来場者があり、大変良い雰囲気の中でコンサートが開催された。
・シオン祭コンサート	
学園祭で実技レッスン受講生が発表。	10/8 シオン祭にて開催した（学生主催）。

計 画	報 告
<p>・公開講座「オルガン・声楽・神学」（全3回開催）。</p>	<p>6/22 公開講座第1回 神学「礼拝って何ですか」 講師：大和昌平 午後のコンサート オルガン演奏：山内吏奈</p> <p>7/13 公開講座第2回・声楽「発声について」 講師：稲垣俊也 午後のコンサート 歌：稲垣俊也</p> <p>10/26 公開講座第3回・ピアノ「礼拝のための前奏曲」 講師：内籐真奈 午後のコンサート ピアノ演奏：内籐真奈</p> <p>11/16 公開講座第4回・オルガン「レジストレーション」 講師：早島万紀子／宇内千晴 午後のコンサート オルガン演奏：早島万紀子</p> <p>公開講座で学んだことを所属する教会の活動に生かしたいとの声が多く寄せられ、大変有意義なプログラムを提供することができた。</p>
<p>(イ) 学内コンサート…実技レッスン受講生による発表の場としてのコンサートを開催（出演者の状況をみて判断）。</p>	<p>教務課移管により、18頁（教務課⑧音楽関係）に記載。</p>
<p>(ウ) クリスマスコンサート クワイアクラス受講生により、クリスマスに相応しい曲の演奏と合唱のコンサートを開催。</p>	<p>12/14 クリスマスコンサート。故天田繫氏のメモリアルコンサートとして開催された。 天田氏を慕う多くの卒業生、教会関係者が来場され、同氏を偲ぶとともに、良い交流の時がもたれた。</p>
<p>(エ) 卒業記念コンサート 卒業生予定者の独唱・独奏また合唱サークル木声会による合唱を中心としたコンサートを開催。</p>	<p>教務課移管により、18頁（教務課⑧音楽関係）に記載。</p>
<p>(オ) 2012年度チャペルコンサートは休会</p>	
<p>b. 講習会部門</p>	
<p>第41回夏期教会音楽講習会を7月下旬に開催。 主題講演講師：藤原淳賀（聖学院大学総合研究所教授）</p>	<p>第41回 夏期教会音楽講習会 7月26日(木)－28日(土) テーマ「賛美－礼拝から宣教へ」主題講演講師：藤原淳賀（聖学院大学総合研究所教授） 夏期教会音楽講習会のすべてのプログラムが祝された。全体の参加者は50名と毎年コンスタントに多くの受講者が与えられている。</p>
<p>c. 研究発表部門</p>	
<p>ジャーナル「礼拝・音楽研究」62号を発行。</p>	<p>2013年6月発行予定。</p>

計 画	報 告
<b>2. 管理部門</b>	
<b>(1) 総務部</b>	
<b>①総務関係</b>	
a. 経費削減への取り組み	
<p>(ア) 大学報、HPを活用するなどして行事の招待状の発送先を見直し、経費節減を図る。</p>	<p>各行事の運営については特段の問題なく行うことができた。また、案内状の発送については計画通りに行ったが、より効果的な案内のあり方を引き続き検討したい。</p>
<p>(イ) 接待茶菓代、消耗品費等の削減を引き続き継続する。</p>	<p>左記を実施し、支出の抑制に努めた。次年度もより効果的な支出に努めて、経費削減を継続したい。</p>
<p>(ウ) リトリート（修養会）への職員の参加方針を見直し、原則自由参加とし、業務上参加が必要な者のみを出張扱いとする取扱いを継続する。</p>	<p>・引き続き、職員のリトリートへの参加は自由参加とした。 次年度以降も継続したい。</p>
b. 加盟団体等	
<p>日本私立大学協会、キリスト教学校教育同盟、日本介護福祉士養成施設協会、日本福音同盟その他各種団体に加盟し、情報交換などの機会として積極的に活用を行うが、年費等の負担が大きくなっており、実質的に活用されていない等 加盟が形骸化している団体については、加盟の見直しも適宜進める。</p>	<p>・各団体に加盟し、情報交換などを積極的に行っている。 ・11/10には、キリスト教学校教育同盟の学校代表者協議会が本学において行われた。今後、キリスト教学校教育同盟加盟各校との交流の深化が期待される。 団体加盟は計画通りに行ったが、加盟団体の見直しの具体的検討には至らなかった。次年度以降の課題としたい。</p>
c. 教員・職員の評価制度の検討、勤務体制の検討	
<p>職員の評価制度については、2011年度において、資格制度に関する規程の整備や資格ごとの評価基準の明文化について、準備を進めるなど一定の成果があった。2012年度はこれらを踏まえて、実際の評価のあり方や評価者のトレーニング、評価をどのように労務に反映させるか、等について検討を行う。また、賞与における評価の反映等についても情報収集を行う。</p>	<p>・職員の資格制度の説明会を3月に行った。昇格試験に関する意見が出され、昇格試験の詳細を検討して後に施行することとした。 ・評価のあり方や評価者のトレーニング、評価をどのように労務に反映させるか等についての検討は今後の課題である。 施行が遅れており、2013年度中に実施したい。また評価のあり方や評価者のトレーニング等も引き続き検討していく。</p>

計 画	報 告
<p>教員の評価については、情報収集を今年度も継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き情報収集を行っているが、具体的な検討は行っていない。</li> <li>・任期つき助教、任期つき講師（契約講師）の制度を整備した。また、教員の昇任選考の際に、アカデミック・ポートフォリオを活用することを規程上明確にした。</li> </ul> <p>具体的な検討を行うとともに、「評価」に取り組む動機付けについても検討していきたい。</p>
<p>d. 同窓会との連携</p>	
<p>卒業生交流委員会、及び同窓会幹事会との連携を継続し、同窓生とのよりよい交流を図る。卒業生交流委員会において、卒業生をお招きしての懇談会を引き続き実施するとともに、卒業生交流委員会の新たな活動目的についても検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会幹事会に、卒業生担当理事及び職員が陪席し、情報交換を行っている。</li> <li>・10/1に同窓会と学園の懇談会を実施した。</li> <li>・卒業生交流委員会を定例開催（年3回）している。顧問を交えて有意義な意見交換を行っている。</li> <li>・卒業生交流委員会の新たな役割について、「学園の『前身校』出身者と、現在の学園（TCU）との結びつきを深める」「同窓会の働きを応援し、同窓会と学園のパイプとなる」等を柱に、検討を行っている。</li> <li>・2013年1月に、卒業生交流委員会に理事長及び理事1名が出席し、卒業生と支援会に関する懇談を行った。</li> </ul> <p>各事業をほぼ計画通りに実施した。数年前と比較し、大学と同窓会の連携が進んでいるとの評価が寄せられている。引き続き同窓生などの声に謙虚に耳を傾け、本学が同窓生のために貢献できる事柄を探り、実施していきたい。</p>
<p>e. 情報ネットワーク関係</p>	
<p>教研棟・研究室LAN環境整備、全寮LAN環境整備、グループウェア移行研修等について、検討の上実施していく。</p>	<p>LAN環境の整備を完了した。 グループウェアへの移行は、継続して検討を行う。</p>
<p>②食堂関係</p>	
<p>安全で健康的な食事の提供を心がけ、食中毒の予防策と緊急時の対応の策定、器具を含めた食堂の衛生面、安全面への改善、また快適に食事ができる様に努める。</p>	<p>安全、健康、快適的な食事の提供に努め、そのための諸施策を行った。</p>
<p>③管財関係</p>	
<p>a. 図書館ボイラー工事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交換を実施した。</li> </ul> <p>年間のランニングコストを若干向上させることができた。</p>
<p>b. 教室LAN配線工事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院棟への配線を行った。</li> </ul> <p>これにより未整備であった教室のLAN配線が完了した。</p>
<p>c. パイプオルガンオーバーホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的なオーバーホールは設置以来初となった。</li> </ul> <p>今後は、オルガン内空調設備設置に次ぐメンテナンスを実施していきたい。</p>

### III 財務報告

## 1. 2012 年度決算概要

学園の当期中期計画（2008-12 年度）の最終年度として、「現状で可能な最善」と考える資金収支均衡を予算方針に掲げ進めてきた。結果は資金収支でプラス 23 百万円となった。経費削減の努力や国庫補助金交付額が予測を上回ったこともあるが、最大の要因としては、経済情勢や為替動向の好転により、所有している有価証券の評価差額が年度末時点でプラスに転じたことが挙げられる。経常収支では、マイナス 5 百万円、教育研究活動のキャッシュフローはプラス 3 百万円である。帰属収支はマイナス 75 百万円、消費収支はマイナス 92 百万円となり、それぞれ予算対比ではマイナスを低く抑えられる結果となった。本学は収入構造の転換を図る途上にあり、学生の定員確保及び増員の検討と寄付金募集に力を注いでいる。学校の永続性の観点からも、期末時現預金有価証券の額を少なくとも維持し、次の段階としては安定した帰属収支の均衡を達成していく必要がある。

### 【用語について】

経常収支：ここでは、学校の通常の活動による、年度中の収支を表している。

資金収支：ここでは、現預金有価証券の期首と比較しての期末での増減を見ている。

## (1) 決算

(単位:百万円)

		予算額	決算額	差額
A	期首現預金・有価証券	1,988	1,988	
収入の部	学納金	172	163	-9
	手数料	3	3	0
	寄付金	150	50	-100
	補助金	155	172	17
	資産運用	40	37	-3
	事業収入	91	86	-5
	雑収入	32	35	3
B	計	643	546	-97
支出の部	人件費	399	354	-45
	教育研究経費	178	162	-16
	管理経費	35	35	0
	C	計	612	551
D	(B-C) 経常収支	31	-5	-36
財務収支	施設投資	8	7	-1
	設備投資	15	9	-6
	その他収支	-9	-44	-35
	E	計	14	-28
F	(D-E) 資金収支	17	23	6
G	(A+F) 期末現預金・有価証券	2,005	2,011	6
消費関	減価償却額	96	96	0
	その他収支	23	-26	-49
	H	計	119	70
I	(D-H) 帰属収支	-88	-75	13
係	J 基本金組入れ	24	17	-7
K	(I-J) 消費収支	-112	-92	20
L	【参考】翌年度繰越消費収入(支出)超過額	-232	-212	20

## (2) 貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部				負債・基本金・消費収支差額の部			
科目	2012年度末	2011年度末	増減	科目	2012年度末	2011年度末	増減
固定資産	8,139	8,240	-101	固定負債	130	128	2
流動資産	578	521	57	流動負債	114	85	29
				基本金	8,685	8,668	17
				累積収支差額	-212	-120	-92
計	8,717	8,761	-44	計	8,717	8,761	-44

## (3) 主要財務比率

(単位:%)

区分	算式(×100)	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	67.1 (52.8)	68.0 (52.6)	60.2 (52.9)	61.0 (57.0)	61.0
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	222.5 (72.3)	180.5 (72.4)	154.7 (72.0)	214.8 (76.8)	218.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	42.6 (31.0)	45.0 (30.9)	43.6 (30.9)	42.6 (28.8)	43.9
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.1 (9.9)	6.9 (10.3)	5.4 (8.8)	5.7 (9.5)	6.4
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	$\Delta 55.8$ (0.2)	$\Delta 23.1$ (3.7)	$\Delta 14.3$ (4.4)	$\Delta 33.1$ (2.1)	$\Delta 12.9$

※備考 ( ) 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による医歯系法人を除く大学法人平均値を示す。